

# ともに生きる

## NHKスペシャル ドラマ こもりびと

放送日:2020年11月22日 放送時間:73分

### この番組の良さ



#### ● 「ひきこもり」について考える

一昔前、若者の「ひきこもり」が社会問題としてクローズアップされていました。現在では、ひきこもりの実態が長期化し、中高年にも見られることが明らかになっています(平成30年度の内閣府による調査では満40歳から満64歳までのひきこもりの推計数が61.3万人)。ドラマ「こもりびと」では、中高年となったひきこもりの当事者にその親が関わる姿を通して、現代社会の問題点や当事者支援について深く考えることができます。



執筆者  
京都教育大学  
総合教育臨床センター  
専任講師 **鈴木英太**



対象校種 小学校高学年 中学校 高校 大学 教員研修

対象教科 学級活動 総合

### 番組活用のポイント

#### ● ひきこもり当事者の思い

ひきこもりに対して、世間の人たちはどのように考えているのでしょうか。ずっと部屋から出られないことが「ひきこもり」の定義ではありません。趣味の用事だけ外出する、近所のコンビニなどには出かける、家の中ではウロウロしている、などの場合もあります。周囲の人からは「怠けているだけ」「働こうという気持ちがない」「さぼっている」などと思われていることも少なくありません。何もかもがうまくいかない、10年以上ひきこもり生活をしている雅夫の葛藤は、当事者の人たちの置かれている状況の理解に繋がります。

#### ● 家族の視点から考える

息子が10年以上ひきこもっていることを世間に隠していた一夫。胃がんで余命宣告を受けたことを機に、息子の雅夫と向き合うことを決意します。雅夫を理解しようとする中で、一夫は自分の言動に一因があったと考え始めます。番組を視聴することで、当事者の思いと家族の思いがすれ違う現実など、家族の視点でひきこもりについて考えることができます。